

これが聞きたい
これを言いたい

6 議員が登壇

一般質問

町政を問う

一般質問は、議員の日常活動と調査・研究、町民の声や自身の考え方をもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。質問者、答弁者それぞれ30分の時間制限があります。



一般質問事項

質問者	件名	頁
田境 毅	1 生活道路の安全確保を 2 幸田駅のあるべき姿は	11
丸山千代子	1 ジェンダー平等への取り組みを 2 国保の18歳以下の均等割減免を	12
都築 一三	1 大井池までごみ対策に看板を 2 古刹浄土寺の坂道の拡幅を	13
水野千代子	1 コロナ模擬接種で課題の検討を 2 男女共同参画条例の制定を	14
廣野 房男	1 歴史祭りで全国にアピールを 2 奥三河との交流で里山の開発を	15
黒木 一	1 運動施設の利用状況で問題点は 2 スケジュールの告知を早く	16

質問者、答弁者それぞれ30分以内の制限時間。
議会だよりでは、質問と答弁を要約しています。

人生で初めて議会を傍聴しました。まず想像と違ったのが、ひとつのテーマに対して30分も時間をかけて討議することでした。議員の方々も役場の方々も、幸田町を町民ファーストでより良くしたいという思いで真剣に議論されていたという印象でした。安全と利便性、権利と義務、規制と自由それらをどうバランスをとって取り組んでいくか、難しい課題ばかりだと思います。町議会の方々も大変かと思いますが、一歩一歩具体的な手を打っていただき、幸田町がよりよい街になっていくことを楽しみにしています。



の だともふみ
野田智文さん

初めての議会傍聴

議会だよりでは、質問と答弁を要約してお伝えします。詳しい内容は、会議録を幸田町立図書館で閲覧いただけるほか、幸田町議会ホームページでも公開しています。また、議会の映像はYouTubeで配信しています。

議事録



議会映像





たきょう つよし 議員
田境 毅

生活道路の安全確保を

ルール遵守とモラル向上を目指す



生活道路へ迂回する車両に対し、通学途上も含めた交通事故発生を懸念する不安の声が多い。生活道路は安全な環境であるべきもの。

問 生活道路への渋滞回避に対する本町の考え方、迂回実態の分析は。

答 総務部長▼コロナ禍でマイカー通勤が増え、渋滞回避のため、生活道路への迂回が増えたものと思われる。運転者のルールの遵守とモラル向上を目指す。

問 進入防止を啓発する看板の設置状況と効果は。

答 直近3力年で25枚設置している。効果は出ていると認識している。

問 更なる対策、当面の抑止力として、試験的な取組みなどの考えは。

答 防犯交通パトロールの実施や、ゾーン30の区域指定などを進める。

問 全町横断的な安全対策に取組む考えは。

答 幸田町都市交通マスタープランに沿って、交通マナーの向上を推進する。

問 路面標示や安全確認用資機材の対応は。また、効率向上の仕組み導入は。

答 地元情報から現場を確認し、警察などに修繕を依頼する。

建設部長▼他の自治体の取組みを参考にして、町内全域に管理が行き届くよう、システム化を研究する。

問 土地区画整理事業へ対策の反映を。

答 用途に応じた道路を適正に配置する。生活道路は、通過交通の排除を考慮し計画する。

幸田駅のあるべき姿は

橋上化など基本計画を進めたい

安全性や利便性の向上を期待する声と、幸田駅の行く末を不安に感じる声がある。町民と共有できるビジョンが大切。

問 駅前第2ロータリーのコンセプトと効果は。

答 建設部長▼通勤通学時間帯に於ける既設ロータリーの混雑緩和を目指す。駅前の円滑な交通体系に寄与出来る。

問 駅前交通の円滑な流れや、安全性を高めるための問題は。

答 歩道の有りから無しへの切替えや、片側拡幅で道路センターのすれなどがある。

問 幸田駅周辺の将来的な全体像のビジョンを明確にすべき。



工事が進む幸田駅前第2ロータリー付近

を明確にすべき。

答 企画部長▼関係部署と連携協力する。状況の変化と、完成ビジョンを住民と共有する。

問 町民の意見反映および周知方法は。

答 区の懇談会などで、意見交換をしなが

ら進めていく。

問 町長の考える幸田駅のあるべき姿は。

答 町長▼コロナ禍で状況が変わって来たが、橋上化など基本計画に沿った駅にした